

平成24年度大阪市博物館協会外部評価【シート1・2】委員総括コメントへの措置状況（大阪城天守閣）

		指摘事項	措置状況
【シート1】 運営状況 (総括)		①重要なコレクションを持つ博物館であることについてもっと周知しては。	他の博物館施設等からの資料貸出依頼、マスコミや出版社等からの資料写真提供依頼に積極的に応じており、これらを地道に続けることが所蔵コレクションの周知、ひいては大阪城天守閣の博物館施設としての知名度向上につながると考えている。学芸員への取材依頼、講演依頼にも可能な限り応じ、大阪城天守閣が専門の学芸員が配置される博物館施設であることを周知すべくつとめている。 25年春のテーマ展「古写真にみるなにわの行事・祭礼」、26年春のテーマ展「乱世からの手紙」において、天守閣収蔵コレクションの周知につとめ、常設展の広報でも天守閣収蔵コレクションの中からの展示であることを強調した。観光情報誌の中で博物館施設としての面を取り上げてもらいやすくするよう、所蔵文化財の画像提供方法の改善などについて検討中である。25年10月からはグーグルのストリートビューで、施設内が文化財展示室を含めて見られるようになり、天守閣＝博物館という認識を一般に持ってもらうことができる機会を増やすことができた。26年度には、新聞社とタイアップして常設展や展示物を紹介する講演会・展示見学会が予定されている【6月実施、以後継続予定】。
	「館の強み」の認識	①全国に向け、天守閣＝博物館という事実がもっと浸透するように宣伝しては。	
	「館の弱み」の認識	①道順のわかりにくさは道標の増設等で対応可能。夏の日差しを遮るスペースの設置など、公園全体の管理計画の中で提案が必要では。 ②施設の老朽化について、来館者の安全確保の観点から、今後は休館日を設けた施設点検・補修等が必要。必要に応じて臨時休館できるよう検討しては。	①指定管理者である立場上、大阪市による公園管理計画に対し公式に提案を行ったり、議論の場に参加したりすることができないのが現状だが、天守閣はもとより公園の利用全般にかかわる利用者の直接の声が最も多く寄せられるのが大阪城天守閣であり、こうした声を迅速に市当局に伝えるよう努力を続けている。 ②今後施設管理上休館が必要な事案が発生した場合は、市当局と十分協議し進めていきたい。
	「環境の変化」の認識	①調査研究能力と実務能力、情報発信力を持つ学芸員の継続的確保を考えるべき。人材の更新がスムーズに行われるよう十分留意を。 ②短期的な入館者数の増減は気にせず、常に新しい入館者の開拓を。	①市派遣職員の採用を要望しているが、現時点では採用されていない。 ②展示においては、豊臣秀吉、戦国時代、大阪城の歴史といったいわば定番のテーマだけでなく、大阪の祭礼や年中行事、また大阪城の戦後史など、意外なテーマにも取り組んだ。一般に敬遠されがちな古文書を中心とした展示にも挑戦し、こうした意外性の打ち出しを通じ、新たな入館者の開拓につなげたい。
	指定管理期間の変化	①海外との交流をさらに進めてほしい。	外国人向けの音声ガイドについては継続してコンテンツを増やしており、利用者の要望に応じている。また、近年増加傾向にあるイスラム圏からの来館者への配慮なども検討課題となっている。 外国の施設との交流については、「豊臣期大坂図屏風」の原本所蔵者で、友好城郭でもあるエッゲンベルグ城（オーストリア）との交流を継続している。またブルターニュ公爵城—ナント歴史博物館（フランス）からの強い要望により、26年6月から大阪城天守閣の所蔵品を中心とした「サムライ展」が開催される予定で、同城とも交流を深めている【6月～11月開催中】。
今後課題	①学芸員4名が過重労働でないか気がかり。本外部評価に書いたコメントを実現するに当たって、対応が無理な場合には、優先順位を決め取り組むことを期待。技術継承の問題もあり、次世代を担う優秀な人材の確保が望まれ、学芸員の増員は、極めて重要。 ②観客の安全確保には最大限の配慮を。年末年始以外に休館日を設ける必要がある。その際大阪歴史博物館で資料を公開するなど、観客の要望に応えることも。	①学芸員の繁忙状態は解消されていない。大坂の陣400年関連事業など、情報発信のため外部で活動する機会がさらに増加しており、学芸員室に最低一人在室している状態も維持しづらくなっている。市派遣職員としての学芸員の補充・増員が必要であると考えているが、これまで実現していない。 ②これまで月1回程度の休館日設定を繰り返し市に要望し続けているが、実現していない。平成26年には、1月1日も臨時に閉館し市民サービスの向上につとめた。長期的視野に立った快適性、安全性確保のための休館の議論は、目に見える実績が重視される中放置されているのが現状で、今後も必要性・重要性を市当局に強く訴えていく。	

【シート2】各館・所の特徴

事業区分	指摘事項	措置状況
1 資料の収集、保存、活用	①今後とも他館への積極的な資料貸出を。 ②収蔵庫の保存環境に経年劣化がないか、恒常的な監視を。	①平成25年度の貸出許可件数は31件、点数は188点にのぼった。26年度も多くの貸出が予定されており、海外の施設へ貸出も予定されている。 ②設備のメンテナンスに努めると同時に、収蔵庫内の温湿度監視、空気環境測定、庫内や周辺の防虫防霉対策を継続して行っている。
2 調査・研究	①館HPでの内容紹介等、資料集、紀要の周知を。研究機関としても積極的アピールを。 ②今後も積極的な現地調査を。 ③大阪城の研究も含め、大阪を軸にした史観の構築、もうひとつの日本史、というような視点から調査研究を展開してはどうか。	①史料集も紀要も図書館・博物館や関係先に頒布するぎりぎりの部数しか作成していないが、その内容をかみくだいてHPや展示・講演等で紹介するよう、引き続き努めたい。 ②調査事業の柱である「豊臣時代資料・史跡調査」「徳川時代大坂城関係資料調査」は、ともに継続して取り組んでいる。 ③豊臣期の大坂についてはもちろん、徳川大坂城についても日本史上における大坂の役割の再評価を念頭に置きつつ、引き続き調査研究に取り組んでいきたい。
3 展示(常設展示、特別展)、来館者サービス	①特別展、常設展ともに十分な活動でありぜひ継続を。 ②次回の展示テーマ(仮称でも)について、HPに掲載を。 ③外国人対応について、外国語表記の図録や簡易な小冊子等の刊行などを視野に今後も努力を。	①自主企画の特別展・テーマ展を継続している。25年度の特別展「大阪城はこの姿」では、戦後の文化財保護というこれまでにない切り口で大阪城の魅力を紹介し、テーマ展「乱世からの手紙」では一般に関心の低い古文書を正面に押し出した展示に挑戦し、予想以上の成果をあげることができた。 ②常設展示テーマの事前告知については、展示の直前といったそれまでの状態から、おおむね一ヶ月前ごろに改善された。 ③外国人に人気の高い図録、英文併記の図録が品切れにならないようにつとめ、各国語のリーフレットは平成26年度の改訂版完成に向け作業を進めている【26年6月完成済】。音声ガイドのコンテンツ製作の継続により、収蔵品の多言語解説文が年々蓄積されており(25年度まで220)、外国語表記の図録や小冊子作成を計画する上での諸条件が整いつつある。
4 教育普及、学習支援、友の会、ボランティア	①今後も保護とバランスをとり文化財公開を。 ②今後も可能な限り講師派遣を。学芸員の出張手続きの簡素化等、より負担を減らす館内サポート体制を。	①櫓・金蔵の内部公開を引き続き秋に行っている。25年度は古建造物の重要文化財指定60周年だったこともあり、これらの文化財としての価値や保護の歩みについて、特別展でも詳しく紹介した。 ②24年度に56回、25年に54回、講演等の講師をつとめた。26年・27年は大坂の陣400年であり、一般の関心のさらなる高まりが予想される。こうした動きに可能な限り応えてゆきたい。天守閣としては協会総務部に対し手続きの簡素化を求めている。今後は専決規定に基づいた改善をはかる。
5 学校等との利用促進、学校教育支援	①中学生の職場体験について、今後も継続を。歴史や文化に触れる機会に恵まれない子どもたちへのアプローチ等も、可能な範囲で検討を。 ②写生画の募集に合わせ、歴史への興味を引き出す工夫を。 ③博物館学芸員実習について、専門的能力の高い人材育成の観点から、院生優先の検討を。	①中学生の職場体験は、24年度には3校9名、25年度には4校10名を受け入れた。また24年度からは歴史街道推進協議会と連携した子供向け参加体験プログラムを実施しており、歴史や文化に直接触れる動機づけを行っている。 ②募集時の工夫として、本年度より対象をこれまでの小中学校から幼稚園にも広げ、また「写生」にこだわらない「絵画」の募集とするなど、より多くの参加者が得られるようにした。描き、応募することが歴史への興味に直結するので、これからも多くの作品が集まるよう工夫を重ねていきたい。 ③大阪城天守閣にどのような実習生を送り込むかは個々の大学の自覚的判断の問題と考えているが、いずれにせよ、質の高い学芸員養成という社会の期待に応えるべく、今後も実習内容の充実につとめていきたい。
6 広報・宣伝、情報公開と発信	①HPIについて、『大阪城天守閣紀要』バックナンバーの目次等、学芸員の研究成果の積極的掲載を。 ②引き続き外国人旅行者・旅行者への広報・宣伝を。一方で観光ポイントのみでなく歴史博物館としての強いメッセージを。	①シート3-2を参照。 ②HPを4か国語で提供し、直接あるいは大阪観光局を通じてリーフレット等を海外旅行社等に配付している。そのほかの外国人旅行者誘致に関してはシート2「指定管理期間の成果」を参照。歴史博物館としてのアピールについてはシート1参照。
7 地域、市民、関連機関との連携・交流	①今後も大阪歴史博物館との共通入場券の発売に力を。 ②今後も異質な分野との連携を図り、普段博物館を利用しない層へのPRを。 ③全国城郭管理者協議会へ参画について、今後も積極的な連携・交流と同種施設のリーダー的存在としての貢献を。	①共通入場券の発売は24年度13315枚、25年度14015枚と安定的に推移しており、周知のためHPのトップページに共通入場券のバナーを設けた。入場券販売手法の開拓や見直しについては、利便性や効率性をよく検討したうえで今後とも進めていく。 ②KANSAIウオーク、大阪城サマーフェスティバルなどといった大阪城公園を利用する文化・スポーツイベントとの連携を継続して行っており、参加者が大阪城を史跡として楽しみ、天守閣を訪れる動機づけをはかっている。 ③全国城郭管理者協議会には運営の中核施設として引き続き積極的に参加し、管理運営上の情報交換、相互交流などにつとめている。
8 施設の整備、維持管理、リスクマネジメント	①施設環境について、今後も利用者の安全確保と利便性を高める改善を。 ②LED化、空調機の更新について、引き続き努力を。	①引き続き設備等の定期的な保守点検を実施し、安全で快適な施設の維持管理に努めた。26年度にはトイレ内のベビーシート・ベビーキープの改善などが予定されている【26年6月実施済】。 ②LED化については、性能を避け現在稼働している設備の状況、技術水準の見極めなどを研究しつつ進めていきたい。空調機の更新は、昨年度に引き続き大阪市内に要望を重ねているところである。
9 運営・マネジメント	①各種イベントや広報、開館時間延長について、勤務体制に無理のない範囲で今後も継続を。	①桜の開花にあわせて春の開館時間延長期間を延ばしたり、学校における夏休みの短縮にあわせて延長時間を変更したりするなど、勤務体制にも考慮した効果的・効率的な実施に努めている。
10 a ※各館の特性ができるように、この項目を活用する。	①テレビ・ラジオ番組の制作協力について、館のHPで紹介を。 ②今後も大阪の精神的な支柱として、大阪の歴史と文化について内外にアピールを。	①協力の度合いに応じ天守閣HPにて紹介を行った。 ②史跡と施設の知名度を向上させる努力を、施設を充実させる取り組みと一体のものとして今後も続けていきたい。